

2023年度みじん子賞を受賞して

水環境を守っていく－私たちの活動で博多湾を豊かに 小学生・高校生・地域の方々とのつながり－

福岡工業大学附属城東高等学校 科学部

1. 受賞の感想

この度は、栄えある「みじん子賞」をいただき、科学部員のみならず、本校としても名誉なことであり御礼申し上げます。研究活動を支援いただいた専門家の先生方、行政等の皆様からも受賞を喜んでいただきました。水環境が激変している博多湾、和白干潟での研究活動で、学習時間との調整、干潮時や気候等に左右される中、頑張った科学部員への今後も頑張れとの激励として、環境保全・楽しい和白干潟の再生に向け活動を展開していきます。

2. 福岡工業大学附属城東高校科学部について

福岡工業大学附属城東高校は、福岡市東部に位置し、福岡工業大学の敷地内に学舎がある。科学部は、1998年4月に理科に興味を持った生徒が入部し、天体観測や化学実験から活動を開始した。順々生物に興味のある生徒も入部し、活動の範囲も広がり学校からほど近い和白干潟での生き物調査を開始した。当時は10数名と少ない部員数であったが文化祭や学校紹介の機会に活動を広く伝えることで部員数は大きく増え、今では部員は40名前後在籍している。生徒が興味・関心を抱いたことを研究テーマとして活動を行っている。その研究成果は、地域の科学イベント等での発表やワークショップを通じて地域の小学生に体験してもらったりして広げるよう努めている。

3. 活動の内容

3.1 アマモ場造り活動

2018年から九州大学名誉教授川口先生のご指導の下、志賀島海域を中心に生き物のゆりかごのアマモ場の再生に取り組んできた。そんな中、福岡市の協力で科学部員や博多湾NEXT会議の皆様で種子を採取し、姪浜漁協の皆様のご協力で成熟させた種を小学生に預け、小学生が育てた苗を科学部員が和白干潟に植える新たなアマモ場の創出に向けた取り組みを行ってきた。アマモ場造りを通じ人とのつながりができた。また、小学生も植えた場所を訪れるなど海の環境への興味・関心が高まったと感じている。

さらに今年度は本活動をアマモサミット2023 in ふくおかでも発表を行った。その中で行われた高校生サミットでは、志賀島でアマモ種子団子投げ入れも行いアマモ場の拡大につながればと考えている(図1, 2, 3)。

3.2 生き物調査

和白干潟での生き物調査を実施しているが、他地域のアマモ場に棲息する生き物との比較のためアマモ場での生き物調査を行った。その結果を和白干潟での生き物調査と同様に博多湾内の生き物図鑑として取り纏め、小学生などが参加したイベントでの配布や地域の文化祭時に展示を行った(図4, 5)。

4. 謝辞

九州大学名誉教授川口先生、福岡大学伊豫岡先生、福岡市港湾空港局の皆様、博多湾NEXT会議の皆様、一般財団法人九州環境管理協会藤井様、ウェットランドフォーラムの松本様、FOFAの皆様に変にお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

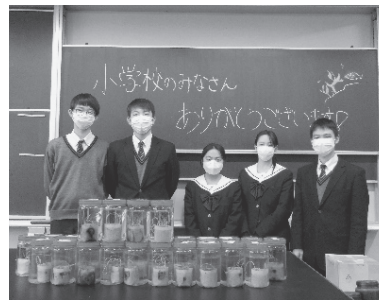


図1 小学生からのアマモ苗

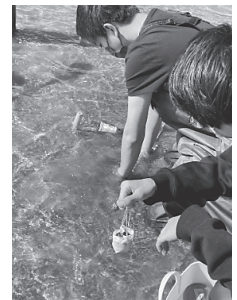


図2 アマモ苗植え付け



図3 アマモ種子団子投げ入れ



図4 文化祭での展示



図5 科学系イベント